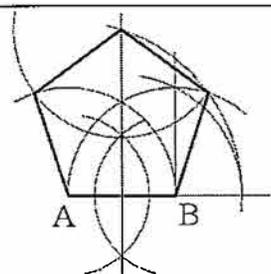


高等学校工業科（インテリア）採点基準

2枚のうち1

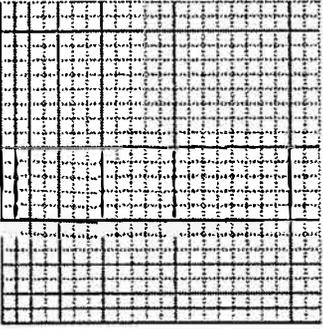
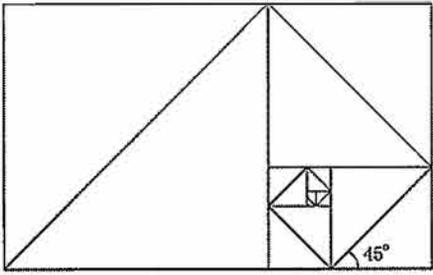
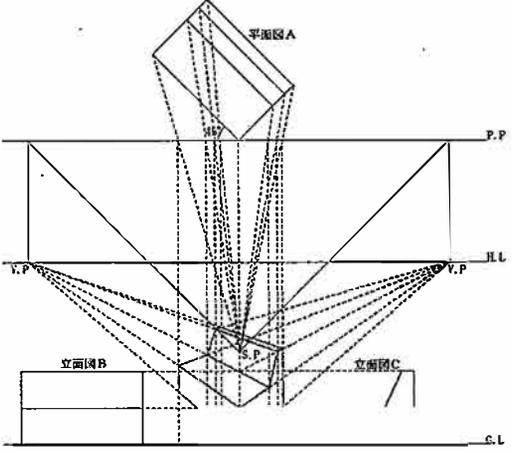
【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	特許権	順序は問わない。 全部合っているものだけを正答とする。	5
	実用新案権		
	意匠権		
	商標権		
2	 <p>※ 図は、正答を縮小したものを示している。</p>	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	9
3	問題に誤りがあったため、掲載いたしません。 なお、すべての受験者に対し、正答として扱うこととします。		8
4	$(30 - 30 \times 0.05) \div 0.05 = 570$ [g]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
5	$85 \div 39.997 \times 1000 \div 500 = 4.2503\dots$ したがって、4.25 [mol/L]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
6	角 速 度 $2 \times 3.14 \times 500 \div 60 = 52.3333\dots$ したがって、52.3 [rad/s]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4
	周 速 度 $86 \div 100 \times 3.14 \times 500 \div 60 \times 3600 \div 1000 = 1.012$ したがって、81.0 [km/h]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4
7	支点Aの反力を R_A 、支点Bの反力を R_B とする。 $R_A \times 0 + 8 \times 2.5 + (-R_B \times 10) = 0$ から $R_B = 20 \div 10$ $= 2$ $R_A = 8 - 2$ $= 6$ したがって、 $R_A = 6$ [kN]、 $R_B = 2$ [kN]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
8	① $(1110)_2$		各 3 × 2
	② $(1111000)_2$		
9	① $(25)_{16}$		各 3 × 2
	② $(6D)_{16}$		
10	(1) $F = A \cdot B + \overline{A} \cdot \overline{B}$	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
	(2) 排他的論理和回路	反一致回路, EXCLUSIVE-OR回路もよい。	3
11	① RAM	random access memory もよい。	各 3 × 2
	② ROM	read only memory もよい。	
12	LAN		3
13	$1 \div (1 \div 24 + 1 \div 12 + 1 \div 8) = 4$ [Ω]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
14	$1.5 \times 10^{-6} \div 5 = 0.3$ [μF]	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
15	ダイオード		3

1

100

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
2	<p>プロダクトデザインの意義、要素、用途などの基礎的な内容を扱うこと。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	20
1	<p>(1) 床、壁、天井の順に明度を高く構成していく。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	5
	<p>(2) 心理的効果により壁が遠くにあるように見せるため、壁の一面をアクセントカラーとして、後退色である青系の色相とする。また、室内の奥行きが感じられるようにするため、明度が低い収縮色の壁紙を使用する。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	20
3	<p>(1)</p> 	<p>フィボナッチ数列 1, 1, 2, 3, 5, 8...のマス目で線を描いていけばよい。</p>	10
	<p>(2)</p> 	<p>※ 図は、正答を縮小したものを示している。</p>	10
1	<p>等角投影図法は、二消点透視図法に比べると作図が簡単であり、空間のボリュームや構造のシステムが分かりやすい。しかし、平行投影線のため遠近感表現できないので実在感がない。等角投影図法に比べて二消点透視図法は作図が複雑になるが、完成図はだれが見てもひと目で設計の内容が把握できるという利点をもっているため、プレゼンテーションには、二消点透視図法が適している。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	15
4	<p>(2)</p> 	<p>S. Pから45°の基準線をP. Pまで引き、その交点から垂直にH. Lにおろした交点がV. Pとしていけばよい。 S. P点に合わせ、A図の各角をP. Pまで足線を引く。P. Pの各交点から垂直にG. Lまで足線を引く。 座面、背部の高さと各足線交点から、V. Pを伸ばし、遠近感のある立体がかけられていけばよい。</p>	20
	<p>※ 図は、正答を縮小したものを示している。</p>	35	